

花園大学
日本文学科

通信

第13号
通巻41号

二〇二〇（令和二）年六月十五日発行
編輯・発行 花園大学文学部日本文学科
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町八、一
電話（〇七五）八一・五一八一（代）
振替 〇一〇五〇・一・四三九九五

御挨拶

高橋啓太

本年度より日本文学科の主任を務めることになりました高橋です。花園大学に赴任してまだ三年目でわからないことが多くございますが、昨年度まで主任でいらした下野先生をはじめ、諸先生方のお力添えをいただきながら職務を全うして参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本学は入学式中止や対面授業の禁止などの対応を余儀なくされております。本学科に関することと致しませんが、すでに本学ホームページ上でお知らせしておりますように（四月二二日付）、日本文学科公開講演会中止を決定しました。楽しみにされていた方々も多くいらつしやることと存じますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

さて、新年度を迎えて人事に動きがございましたので、ご報告致します。昨年度をもち

まして、日本文学科で三〇年にわたってご教鞭を執ってこられた新聞水緒先生が定年を迎えられ退職なさいました。私自身が一緒にお仕事をさせていただいたのは二年間だけですが、校務についてご助言を賜ったり、真夏の猛暑で疲弊し切っていた時に差入れをくださったりと何かと気にかけていただきました。今まで本当にありがとうございました。

そして、新聞先生のご後任として、本年度から神田邦彦先生を専任講師としてお迎えいたしました。ご専門は中世文学で、新聞先生ご担当の講義・演習を引き継いでいただくこととなります。昨年度お迎えした秦先生（現代文化）に神田先生を加えて、専任教員は下野先生（書道）、橋本行洋先生（日本語学）、高橋（近現代文学）との五人体制となりました。また、特任教授として引き続き、曾根誠一先生（中古文学）には講義・演習をご担当いただいております。

書道コースでは、引き続き客員教授として真神巍堂先生（卒業制作担当）、嘱託教授として森田彦七先生（漢字）、日比野実先生（か

な）に書道実技をご担当いただきます。

昨年度から日本文学科の入学定員が六十名に増員しましたが、本年度の新入生は七十二名と二年連続で定員を満たすことができました。しかしながら、この状況は大手私大の定員抑制によるところが大きいと思われまます。次年度以降を楽観視できるわけではありませんので、学外に向けて、日本文学科をどれだけアピールできるかが重要になってくるでしょう。

先行き不透明な状況ですが、教員一同、新しい体制で日本文学科を盛り立てていく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。（本学准教授）

二〇二〇年度花園大学日本文学会

公開講演会中止のお知らせ

既に大学ホームページ等でもお知らせ致しておりますが、「花園大学日本文学会公開講演会」を、ご周知の通り COVID-19 の感染拡大防止の観点から、中止することに致しました。日程の変更も考慮致しましたが、他の大学業務・行事の開催についても不透明な状況にあり、中止のやむなきに至りました。

皆様には何とぞ御寛恕賜りますよう、お願い申し上げます。

学生へ、私の持論

神田 邦彦

この四月に日本文学科の専任講師として着任した神田邦彦と申します。中世文学、説話文学、日本音楽史(古代中世・雅楽)が一応の専門分野、近年は鴨長明の『方丈記』や『発心集』、あるいは狛近真(こまのちかざね)、琵琶桂流などというものを研究していますが、はじめはこんなふうになるとは思っていませんでした。ただ、こうしたことが好きだったので、頑固に続けてきたということです。

最近、何のために勉強するのか、ということがよく問われているように思いますが、わたしはまったく不要な議論だと思います。勉強というのは芸術やスポーツなどと同じで、本来好きでやるものです。好きだからやる、楽しいからやるという純粹なものです。お金を稼ぐためにやる、資格を得るためにやる、というのでは、どうしても苦しいから、好きで夢中になってやるのに比べ、質が落ちてしまうのです。だから、学問というのは、本来お金抜きでなければなりません。これはもう絶対にそうなのです。損得勘定をしてはいけません、いい勉強などできるはずがないのです。もちろん、テストのために勉強する、単位をとるために勉強するというのはいけません。たくさん勉強した結果、たまたま、テストでいい点がとれてしまった、たまたま、単位がとれてしまった、というのでなければいけないと

思います。

大学というのは義務教育ではないわけで、自分の好きな学部・学科を選んで入ってくるわけですから、好きな勉強ができるというのがいいのです。高校までのように、あれもこれもまんべんなく勉強する必要はないところなのです。だから、大学とは、やっと楽しんで勉強できる場所、ようやく楽しんで勉強できる場所であるはずなんです。こういう場所は大学が最初で最後です。卒業したら、もうこういう場所は得られません。

ですから、人生の四年間だけでも、寝食を忘れ、お金抜きで勉強してみると、きつといい勉強、いい学問ができるのではないのでしょうか、とこういうも考えているわけです。

学生みなさんには、日本文学が勉強したくて入って来た人も、何となく入って来た人も、無我夢中で勉強できるものが得られることを切に願っています。無我夢中で楽しんで勉強できたとき、それはほんとうに濃密な勉強になり多くの発見があることでしょう。また、それが勉強する幸せというものでないでしょうか。

(本学専任講師)

新しい体験、新しい挑戦

徐 衛

去年の3月末に日本に来てから、もう1年3ヶ月になった。蘇州から京都に来て、仕事も生活も新しくなっている。蘇州大学では、ずっと中国の学生に日本語を教え、授業中に時々学生に日本の文化を紹介していたが、花

園大学に来て主に「中国文化論」「中国歴史と地理」の課程を担当して、日本の学生に中国の文化を紹介するようになった。これは私にとつて新鮮な体験であり挑戦でもある。

初回の授業のことだったが、授業前に何度も内容と流れを心の中で確認し、資料やパワーポイントを貯めた「SSD」を持って自信满满で教室に向かった。教室に入ってみると、パソコンがなかった。慌てて、すぐ学務課に行つてノートパソコンを借りてきたが、ケーブルの繋ぎ方がわからなかった。幸い学生の助けがあったので、やっとのことで繋ぎ終えた。でも動画を再生しているうちに音響がないことに気づいた。とにかく、初めての授業では少し困った。わたしは教育内容の準備を重視しすぎて、教室の環境と教学器械の確認を見落とした。これも私が新しい職場を訪れた新しい体験で、印象に残っている。

今年に入って、教育内容に前年より自信があるが、新型コロナウイルスの影響で、オンライン授業の実施は思わなかった。これはまた私に新しい挑戦と新しい体験をもたらしてくれた。現在、オンライン授業は1カ月半余りが経過しており、次第に慣れてきている。パソコンで学生の作文を添削したり、学生の「感想・疑問」を読んだりしていると、その学生の笑顔を想像することが多い。先日、学生からのメールで「この授業の対面授業はいつから始まるのでしょうか?」と聞かれると、わたしも対面授業の始まる日が待ち遠しくなった。

(蘇州大学交換教員)



日本語は「美しき」もの

佐々木 雅一

ここ数年、某俳句番組を録画込みで視聴しているのですが、「日本語は本当に多彩で美しい言語だなあ」と思われることが多々あります。俳句は私が申すまでもなく「五・七・五で季語を含むこと」が原則ですけれども、四季の様々な状況下で、作者の思いを十七音の「調べ」に乗せ、映像として読み手に想像させ、詩情を以て理解させることがどれだけ難しいかを痛感しています。

昔の歌謡曲にも「調べ」がありました。例えば、石本美由起氏が作詞された『悲しい酒』の歌詞「ひとり酒場で飲む酒は 別れ涙の味がする」や、阿久悠氏が作詞された『青春時代』の歌詞「卒業までの半年で 答えを出すと言うけれど」は七五調です。また、松山千春氏が作詞・歌の『恋』の歌い出し「愛すること疲れたみたい 嫌いになつたわけじゃない」は「七・七・七・五」となっており、続く歌詞も基本は七七調で構成されています。

私は今年五十歳になりますが、とかく二〇〇〇年以降に作られた楽曲が一向に覚えられないのは、「調べ」で構成されている楽曲が少なく、音の割り当ても一音符一音でなかったり、音の切れ目と文節の切れ目が一致していなかったりするので、頭で整理できなくなつたからではないかと思うのです。特に最近の楽曲はサビとそれ以外で下手に転調さ

せているものもあり、「音楽」としても理解し難い時があります。キンプリの『シンデレラガール』なんて、いくら聴いても覚えられません。

若者言葉が流行り、「日本語の乱れ」も懸念される昨今ではありますが、日本語は母音や子音が明瞭で、世界でも有数の美しい言語であると言えます。日本語を今一度見直し、その「音」や「調べ」をもっと大事にしておくことで、その美しさを後世に伝えるべきではないでしょうか。(一九九三年度卒業生)

充実した四年間を経て

平野 樺乃

二〇一九年三月に花園大学文学部日本文学科書道コースを卒業し、同年の四月に奈良教育大学の大学院(教科教育専攻 造形表現(美術・書道) 伝統文化教育専修)に進みました。現在、大学院二年目を迎えました。が、新型コロナウイルスの影響により、前期はオンライン授業の措置が取られ、原則登校が禁止されています。家でも勉強は出来ませんが、大学で早く勉強をしたいというのが本音です。

高校卒業後、私は特に学びたい事や目的がなかったため、大学に進学せず就職するつもりでした。進路で迷っている中、母が「書道を学べる大学もあるよ」といくつか書道を専攻できる大学を勧めてくれ、花園大学の存在を知りました。高校三年生の時にオープンキャンパスに参加し、そこで書道コースの教授

である下野健児先生と出会いました。「君たちは絶滅危惧種です」という衝撃の一言から始まり、書道をしている者にとつて当たり前だと思つてしていたこと、使用している道具類に関してこれまで考えたこともなかった視点でお話をされ、一気に心を掴まれた私はこの先生のもとで勉強したい、と思ひ花園大学への進学を決断しました。

書道の専門知識を一切持たない状態で入学したため、興味はどんどん広がっていき、学びたい事が尽きない四年間を過ごしました。下野先生の授業ももちろんですが、実技に関して、一流の先生方が指導してくださるのでとても刺激を受けました。臨書をはじめ作品創りに関して先生方の熱心で優しい指導により、四年間で書く技術も向上したのではないかと思います。

大学院では、より深く書道の知識をつけられるよう日々研鑽しており、さらに多くの人に書道に関心を持つてもらうために、書道の知識や技術をことばでどのように伝えればよいのかを常に考え研究に取り組んでいます。今後自身も自身の研究を深めながら、少しでも多くの人に書道に関心を持ってもらい、書の面白さを発信していけるよう、努力していきたいと考えています。

(二〇一八年度卒業生)



近況

豊福実希

二〇一九年の三月、私は花園大学を卒業しました。

花園大学では自分の興味のある授業に専念し、好きなことが好きなだけ出来る環境があり伸び伸びと勉強ができていました。

そんな私も大学を卒業しお洋服が好きだという理由でアパレルに就職しましたが私が社会人になり一番の衝撃は自分が思っていた以上に甘えていたということです。社会人になりその甘さが通用しないこと、これからの自分がどうしたいかを就職活動の時、しっかりと考えられていなかったと感じました。

接客自体は、アルバイトも全て接客であったこともあり苦手意識はなかったのですが、私の性格は求められているものを引き出すことや何かを提案することが苦手なことに気づきました。働きながら本当に「こういうことがしたかったかな」と思う事が増え、お仕事の中でも自分からお声掛けするのでは無く、アドバイスを求められたらと受け身の接客をし、サポートする売上管理などのお仕事をすることが増えもやもやした気持ちでお仕事をしていました。

今更かなとも思いましたがこんな気持ちでお仕事をしていてもお客様や同じ店舗のスタッフに失礼だと思い、また自分自身も成長出来ないと思いました。自分が納得出来るまでじっくりと考え、何か明確な目的を持つ

て来店されるお客様を対象としたお仕事をしてみようと思いい現在転職活動しております。(二〇一八年度卒業生)



『花園大学日本文学論究』第12号

・同一下絵による『竹取物語絵巻』四伝本文の検討…逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本 曾根 誠一

・古本説話集本文と注釈…

上巻第七話和泉式部歌事 第八話御荒宣旨歌事 新聞 水緒

・「文学者」として生きるということ…

荒正人の文壇論に関する考察 高橋 啓太

・受贈図書目録

(二〇一八年一〇月～二〇一九年九月)

◇入手希望の在学生は、共同研究室(日本文学・書道)まで申し出てください。

◇購読をご希望の方(卒業生・一般)は、花園大学日本文学科あてにご連絡ください。

編輯後記

◆大学の対面授業が行われなまま、春学期が終わってしまう見通しになりました。学会・研究会もすべて中止か、web上(オンライン)で行われるようになっていきます。学会・研究会は、研究発表やシンポジウム以外の場でも多くの人と情報交換ができる貴重な場であったのに、残念です。(Y)

◆ラテン語「コロナ CORONA」は英語「クラウン CROWN」の語源で、「王冠」という意味。かつてトヨタの乗用車にコロナというのがあったが、クラウンとコロナは同じ意味の車名になる。ちなみに、やはりトヨタのカムリは日本語(和語)の「かんむり(冠)」にもとづく名称で、これもまた同じ意味ということになる。カムリのアルファベット(ローマ字)表記はCAMRYであるが、カラー COROLA、センチュリー CENTURY、セルシオ CELSIOR、カーリーナ CARINA、セリカ CELICA などとともに、車名を「C」で統一しようという意識がうかがわれる。(Y)



トヨペット コロナ
1960 年型